

**新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)活用事業
令和6年度効果検証**

1	事業名	我孫子市自転車観光推進事業
	所管課	商業観光課
	事業概要	別紙1のとおり

1. 効果検証について

我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証を行う「我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議」において、交付金活用事業の令和6年度実績を基に、次のとおり効果検証を実施した。

日 時： 令和7年10月6日(月)

場 所： 我孫子市役所 議会棟 AB 会議室

出席者： 我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員(A分科会)5名
我孫子市商業観光課、企画政策課

2. 議事概要

・商業観光課より、令和6年度事業実績について説明を行った(別紙2参照)。

委員:1人の方がどれくらいの時間使用しているかのデータはあるか。

商業観光課:20分100円の料金で、客単価でいうと2百数十円なので、40分程度ということになるが、あくまで平均値の把握しかできていない。

委員:現状土日の利用が多いということで、商業施設も同様だが、土日しか使われないというのは非常に難しい。平日5日間の赤字を土日で埋めるという形になってしまう。安定的な運営を行うためには、今使っている方が1人2時間ぐらい乗ってくれば、収益が倍ぐらいになると想定できる。ビジネスマンなど通勤で使われている方は除いて、あくまでも土日の利用者の使用時間を延ばす。例えばあびこ農産物直売所「あびこん」の食事処に寄って30分飲食してもらおうとか、名物のパン屋さんとかお蕎麦屋さんとかがあったら「行ってみようか」となるかもしれない。
今の運営状況でいけば、将来的に税金で補填していかなければいけないということが見えているので、利用時間を延ばしていければ、多少芽が出てくると思う。

委員:利用されている時間帯を見ると、7～8時台と16～17時台というのは観光というよりは日々の移動のために使われているということが見て取れる。それが悪いとは思わないが、土日に関しては当然観光目的で長い時間利用してもらえる人を増やす必要があるのと併せて、平日の利用も何か工夫次第で赤字分を埋められないかと思う。

委員:実績を見る限り、見込みにも達していないので結果が出ていないと捉えられるが、担当課としてはこれでOKという感覚なのか、そのニュアンスをお聞きしたい。

商業観光課:利用が多いという意味ではうまくいってるが、収支には課題を感じているというのが率直なところ。担当課としては、住民の皆さんにも便利に使っていただくのも大事であり、それが観光にも繋がっていくということも非常に大事だと考えているので、観光振興の軸として収支で自立しながら継続していきたい。その収支をどうするかというのは大きな課題として認識している。

委員:パンフレットに空港からのアクセスも掲載しているとのことだが、現状のサイクリングマップのターゲットとしてはずれているように思う。
ポータルサイトの利用状況はどのように測っているか。

商業観光課:Googleアナリティクスの基準でアクティブユーザーを把握しており、一人3ページくらいの利用があったことになる。毎月利用が増えてきており、新規の割合がほとんど。増加の要因としては、新規サイトのため、検索エンジンからだんだんと認知されてきたのではないかと考えている。

委員:土地の名前プラス観光で検索すると、大体の観光地の自治体では観光協会系のホームページがヒットしてきて、観光制度がほぼ機能してないところでは自治体のホームページがトップに上がってくる。ホームページのコンテンツをいくら増やしても、直接訪れる人が増えるわけではないので、誘導策、SNSの工夫や、広告などもやっていければよいが、自治体では予算をつけるのは難しいということも理解している。また、各グラフには単位を振ってほしい。

委員:曜日毎と時間帯のクロス集計ができれば、例えば土日の利用者は昼間使っていて、平日は朝や終電後の夜間使っている、というようなことが見えるとわかりやすい。観光で使っている人が多いかもしれないが、実はリピーターはサラリーマンが多いとか、そういうことがわかったりすると、他の施策にも役立てていけるのではないかと

思う。ポートを増やせば確実にサラリーマンの利用は増えると思うし、団地とかの近くに置いたりすれば、さらに利用者は増えるかなと思う。

自転車の稼働率は把握できているか。

商業観光課:数字として取れてはいないが、実感としては同時に稼働しているのは2、3台だろうと思っている。

委員:非稼働率が高く、停まっている台数が多いのであれば、例えば平日に6時間フリー利用で1時間とか2時間の料金でいいですよ、といったサービスをするとか、どうせ動いていないのだったら、長時間乗ってもらって便利さを体感してもらうことも考えられる。自分も都内でLUUPを使用するが、途中でメーターを止められないということがネックで、買い物などには使いづらい。そのような施策をすれば、時間を気にせず利用でき、少しでも稼働率と収益が上がるのでは。

都心のやり方を真似するのではなく、観光地でLUUPをしっかり運営しているところは少ないので、うまく実績を作っていただいた方がいい。データを取りながらマーケティングをして、クーポンの出し方とかも戦略を考えていけばいいのかなと思う。

委員:水の館では、事業がスタートした12月や1月の頃にはほとんど利用されておらず丸々4台が停まっているような状態だったが、最近は全く置かれていなかったり、1、2台しか残っていない状況を見かける。だが使った人の話を聞くと、自転車が置いてあっても充電切れのこともあり、せっかく利用しようと思ってもチャンスロスになっているのではないかと懸念している。充電するには人の手が必要で、費用はかかってくるものだと思うので、使用頻度の多いところは台数を増やしてカバーすることが必要。収支面でいうと、個人的な考えだが、最初の20分の金額を引き上げて、それ以降の加算を安めにするという方法をとれるとよいのではないかなと思う。また、魅力的な飲食店やカフェなどのお店を巡るコースをSNSで紹介し、土日休みの人以外にもPRするとよいのでは。

委員:12月に始まって、これまでは物珍しさもあって一定の利用実績があるのではと感じている。観光地でこの事業をしっかりやっているとところは少ないという委員のコメントを聞いて、我孫子に観光で来る人達、例えば手賀沼公園に親子で遊びにくるような層が果たしてLUUPを使って遊びに行くのかということを見ると、この事業が観光目的で成功するのかということを考え直してもいいのかもしれないと思った。担当課資料の更なる利用促進策はとて前向きで、こういうことをすれば確かに効果が出てくるとは思うが、ターゲットが少しぶれているというか、そこを明確にしようとする、もしかすると選択肢はLUUPじゃなかったのかもしれないけども、

そこをどうやってうまく調和して令和9年まで持っていくのかというのが重要だと感じた。

委員:キックボードの導入予定はないか。

商業観光課:元々やっていたレンタサイクルをDX化しようというところからスタートしているのですが、当初キックボード導入の考えは全くなかった。LUUPを導入した今改めて考えると、坂道でパワーが出にくいということや、手賀沼遊歩道でキックボードを禁止していることから、適さないのではないかと思います。

以上